

第37回

喜多流 青年能

平成27年5月23日(土)
12:00開演(11:15開場)
十四世 喜多六平太記念能楽堂
主催：公益財団法人十四世六平太記念財団



次回喜多流青年能予告

平成27年9月26日(土) 11:15開場 / 12:00開演

能「敦 盛」狩野 祐一
能「三 輪」佐藤 寛泰
能「是 界」佐藤 陽
ほか狂言など

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円) / 学生2,500円(前売2,000円)

インターネット	電話予約
喜多能楽堂ホームページ http://kita-noh.com/ 受付時間：24時間対応、要事前登録(無料) 【お受取り・お支払い】 1)セブンイレブン ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。 2)窓口(喜多能楽堂事務局) クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。	喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813 受付時間：午前10:00～午後6:00 休館日あり 【お受取り・お支払い】 1)セブンイレブン ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。 2)郵送 チケット代金を指定の郵便振替口座にお振込みください。入金確認後、チケットをお届けいたします。 3)窓口(喜多能楽堂事務局) ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。
窓 口	注意事項
喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813 受付時間：午前10:00～午後6:00 休館日あり 【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。	※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。 ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

十四世 喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9
tel.03-3491-8813

お客様専用駐車場はございませんので、お車での来館はご遠慮願います。

花 月 (かげつ)

九州筑紫の国彦山の麓に住む僧(ワキ)が、自分の七歳の息子が行方不明になったことをきっかけに出家し、諸国修行の旅に出ます。春の都に着いた僧は、清水寺にお参りします。僧はそこで花月というものが面白い曲舞を舞うと聞き、門前の者(アヒ)は花月を呼び出します。

花月(シテ)は自らの名の由来を述べ、門前の者と一緒に小唄を謡い舞います。その後花月は桜を踏み散らす驚を懲らしめるため、弓矢で射るよういわれ引き絞った弓を放とうとしますが殺生戒を破ることはできないと弓矢を捨てます。さらに、門前の人の勧めを受けて花月は、清水寺の由来にまつわる「地主の曲舞」を舞います。

僧は花月が行方不明になった息子だと気づき、喜びの父子対面となります。花月は鞆鼓を打って舞い、七歳で天狗にさらわれてからの旅路を舞い語り、父の僧と一緒に仏道の修行へと旅立って行きます。

半 部 (はしとむ)

京都の紫野のあたりで僧(ワキ)が、ひと夏の間に供えてきた花のために立花供養をし、読経しているところへ、女(前シテ)がひとり現れ一本の白い花を供えました。僧が、ひととき美しく可憐なその花の名は何かと尋ねると、女は夕顔の花であると告げるのでした。曇み掛けるように、僧が女の名を尋ねると、その女は、名乗らなくともそのうちにわかるだろう、私はこの花の陰からきた者であり、五条あたりに住んでいる、と言いつつ残して花の中に消えてしまいます(中入)。

里の者(アヒ)から、光源氏と夕顔の恋物語を聞いた僧は、先刻の言葉を頼りに五条あたりを訪ねます。そこには、昔のままの佇まいで半部が夕顔が咲く寂しげな家がありました。すると、半部を上げて夕顔の霊後(シテ)が現れます。夕顔の霊は、光源氏との出会いを語り、舞を舞うのでした(序ノ舞)。そして僧に重ねて弔いを頼み、夜が明けきらないうちにと半部の中へ戻っていきます。そのすべては僧の夢のうちの出来事でした。

源氏物語の同じ部分を題材にしたものに夕顔の一曲があり、こちらでは夕顔の死が主題とされていますが、「半部」では光源氏との出会いの喜びが語られています。また夕顔の花そのものの可憐さに、花の精のような美しい女性夕顔の姿を重ねています。そしてすべては僧の夢、という幻のような優美さが際立つ能です。

枕 慈 童 (まくらじじょう)

中国・魏の時代。皇帝・文帝は鄜縣山(つげんざん)の麓から湧き出るという霊水の水上を尋ねるよう命じ、勅使(ワキ)を山へと送ります。勅使が山奥を尋ね歩くと、山奥の庵にて一人の少年(シテ)と出会いました。

勅使は怪しみ少年の出自を聞くと、少年は七百年も昔の周の時代の穆王(ぼくおう)に仕えていた慈童である日、過って王の枕を越えた科によりこの地に流されたのだと答えます。

穆王はその別れの際、枕に四句の偈文を書き添え慈童に授け、毎朝十方に一札しこれを唱えるように命じました。慈童がこの偈文を忘れぬよう山の菊の葉に書き写したところ、この菊の葉からしただり落ちた露が川水を霊水に変え、それを飲んだ慈童は七百年、姿を変えず少年のままであるといふのでした。

慈童はさらに、穆王がかつて天竺へ渡り、釈迦より治国の法を授けられた有様を語り、菊の霊水を飲み舞を舞い、菊花に戯れ、未変わらぬ文帝の御代を壽ぎ、長寿を授け、山中の仙家へと帰って行きました。

長寿を得る菊の霊水を題材とし、皇帝の御代を壽ぐなど、慶祝の趣に溢れた能です。七百年生きる慈童の颯爽とした遊舞、少年らしい魅力ある「楽の舞など舞尽くして華やかな構成になっています。

番組

仕舞 飛鳥川 金子龍晟
殺生石 狩野祐一

地謡 佐藤陽
塩津圭介
友枝真也
佐藤寛泰

シテ(花月) 谷 友矩

能花 月 ワキ(旅僧) 福王和幸

(大鼓) 亀井洋佑
(小鼓) 飯富孔明 (笛) 杉 信太郎

間狂言(清水寺門前の者) 山本 凜太郎

後見 狩野了一
佐々木多門

地謡

狩野祐一 栗谷充雄
佐藤陽 長島茂
佐藤寛泰 栗谷明生
高林昌司 高林呻二

狂言

蝸牛 シテ(山伏) 山本則秀

アド(主) 山本 泰太郎
アド(太郎冠者) 山本 則孝

休憩二十分

前シテ(里女) 塩津圭介
後シテ(夕顔の上の霊)

能半 部 ワキ(僧) 村瀬 慧

(大鼓) 原岡一之
(小鼓) 森澤勇司 (笛) 一噌隆之

間狂言(五条辺の者) 山本 泰太郎

後見 中村邦生
佐藤陽

地謡

狩野祐一 佐々木多門
友枝真也 金子敬一郎
大島輝久 大村定
谷友矩 内田成信

休憩十五分

シテ(慈童) 高林昌司

能枕 慈童 ワキ(勅使) 矢野昌平

(大鼓) 大倉慶乃助(太鼓) 大川典良
(小鼓) 森 貴史 (笛) 栗林祐輔

後見 高林呻二
佐藤寛泰

地謡

金子龍晟 栗谷浩之
塩津圭介 狩野了一
大島輝久 出雲康雅
友枝雄太郎 友枝雄人

附祝言